

平成30年3月13日

保護者 様

千葉大学教育学部附属特別支援学校
校長 北島 善夫

平成29年度学校評価アンケートの結果について

ご多忙にもかかわらず、平成29年度学校評価アンケートへのご協力ありがとうございました。学校評価の概要についてお知らせいたします。

本アンケート結果をホームページに公表するとともに、5月に行われる予定の附属学校学校評議員会での評価を踏まえたものを、再度、ご報告させていただきます。

※(A=そう思う)(B=まあまあそう思う)の合計数値を肯定的評価として、自己評価をしています。

I 情報発信・連携について

保護者の皆様からは、全ての項目において、80%以上の肯定的評価をいただきました。項目1につきましては、肯定的評価が7ポイント上がっていますが、次年度も学校目標や学校運営の重点目標を説明する機会を確保し、これまで以上に、ていねいな説明を心がけていきたいと思っております。項目3については、肯定的評価が3ポイント上がっていますが、今後もホームページの有効活用を続けていきます。

II 環境・安全について

項目6につきましては、肯定的評価が1ポイント上がりましたが、毎年、厳しい評価をいただいています。老朽化による部分は、今後、改修工事が入る予定ですが、整理整頓については、学校内の努力によるものなので、全職員で意識をしていきます。項目9につきましては、肯定的評価が4ポイント下がっています。適切な初期対応を心がけ、保護者への連絡もしっかりと行っていきたいと思っております。

III 年間計画・行事について

項目12については、肯定的評価が10ポイント上がっていますが、項目13は4ポイント下がっています。学校行事や儀式行事については、今後も内容を精選し、子どもたちが「何を学ぶのか」を明確にした取り組みを進めていきたいと思っております。

IV 教育活動について

8項目のうち5項目で90%以上の肯定的評価をいただきましたが、項目18と22では、職員と保護者の評価に差がありました。今年度、新たに追加した項目ですが、評価を真摯に受け止め、学校としての取り組みを見直す機会にしたいと思っております。

V 職員について

全ての項目において、90%以上の肯定的評価をいただきました。しかし、項目25では、C(あまり思わない)、D(そう思わない)が合わせて6ポイントありました。本校の職員に対する信頼や期待に対するご意見と受け止め、職員一人一人が心がけていきます。

VI 児童・生徒について

全ての項目において、80%以上の肯定的評価をいただきました。しかし、どの項目でもC(あまり思わない)の回答があることを真摯に受け止め、今後も子ども主体の学校生活づくり、教師と子どもがともに活動し、「感じ合い、わかり合い、支え合う」学校を目指していきます。

今回のアンケートでは、本校に対する様々な思い、ご意見、ご要望など多数いただきました。学校として真摯に受け止め、今後も保護者の皆様のご協力をいただきながら、子どもたちのためによりよい教育実践を行って参ります。

学校評価アンケートのまとめ

- (1) 対象者：保護者（回収率92.5%） 教職員（90%）
 (2) アンケート項目：保護者28項目 教職員32項目 ※1から28項目までは共通
 以下、質問項目及び結果を示す。

【評価基準】 A=そう思う B=まあまあそう思う 肯定的評価
 C=あまりそう思わない D=そう思わない 否定的評価
 ※斜線は、H29新設の項目ため比較データ無し

I 情報発信・連携

番号	評価項目	回答者	A	B	C	D	無回答	H29	H28
								肯定的評価	肯定的評価
1	保護者に、学校目標や学校運営の重点目標をわかりやすく伝えている。	保護者	36%	52%	10%	2%		88%	81%
		職員	25%	64%	11%	0%		89%	89%
2	保護者に、各種たよりや連絡帳等で、必要な情報や子どもの様子をわかりやすく伝えている。	保護者	66%	26%	8%	0%		92%	91%
		職員	79%	21%	0%	0%		100%	100%
3	ホームページや学校公開（土曜スクール、学校見学会、オープンスクール）、公開研究会等で学校のことを外部に発信している。	保護者	48%	42%	10%	0%		90%	87%
		職員	79%	18%	0%	4%		96%	91%
4	担任や学校は、保護者の声に耳を傾けて、連携を取りながら、教育活動や学校運営を行っている。	保護者	68%	26%	6%	0%		94%	89%
		職員	68%	32%	0%	0%		100%	97%
5	学校は、関係機関（大学、地域の自治体や学校等）と連携が図られている。	保護者	38%	48%	14%	0%		86%	81%
		職員	19%	59%	22%	0%		78%	86%

II 環境・安全

番号	評価項目	回答者	A	B	C	D	無回答	H29	H28
								肯定的評価	肯定的評価
6	学校内は、美化・整理整頓が行き届き、清潔感がある。	保護者	16%	58%	24%	2%		74%	73%
		職員	7%	57%	36%	0%		64%	57%
7	子どもが安心して学べるよう、安全な校内環境になっている。	保護者	36%	48%	14%	2%		84%	
		職員	21%	64%	14%	0%		86%	
8	校内に掲示されているお子さんの作品や活動の様子は、分かりやすいものになっている。	保護者	64%	30%	6%	0%		94%	
		職員	50%	46%	0%	4%		96%	
9	子どものけがや病気が発生した時の対応は適切に行っている。	保護者	56%	38%	4%	2%		94%	98%
		職員	50%	32%	18%	0%		82%	92%
10	学校は、災害への対応や、事故を防ぐための対応など、安全管理や危機管理に努めている。	保護者	38%	58%	2%	2%		96%	88%
		職員	61%	36%	4%	0%		96%	86%

III 年間計画・行事

番号	評価項目	回答者	A	B	C	D	無回答	H29	H28
								肯定的評価	肯定的評価
11	年間の計画は教職員、子ども、家庭にとって無理のない、適切なものになっている。	保護者	52%	38%	4%	6%		90%	90%
		職員	21%	50%	25%	4%		71%	72%
12	魅力のある学校行事（運動会やふよう祭など）が実現されている。	保護者	49%	39%	10%	2%	1人	88%	78%
		職員	43%	46%	11%	0%		89%	97%
13	入学式・卒業式など儀式行事は、趣旨に合った適切なものとなっている。	保護者	56%	36%	4%	4%		92%	96%
		職員	50%	46%	4%	0%		96%	100%
14	各学部の行事は、子どもたちの発達段階に応じた適切なものとなっている。	保護者	54%	38%	6%	2%		92%	85%
		職員	46%	54%	0%	0%		100%	97%

IV 教育活動

番号	評価項目	回答者	A	B	C	D	無回答	H29	H28
								肯定的評価	肯定的評価
15	教育活動は、子どもたちが自分から目当てと見通しをもって意欲的に取り組める内容となっている。	保護者	54%	42%	2%	2%		96%	91%
		職員	43%	54%	4%	0%		96%	91%
16	各学部教育活動は、卒業後、自立し、働く活動を中心とした社会生活につながるような内容となっている。	保護者	36%	56%	4%	4%		92%	91%
		職員	25%	71%	4%	0%		96%	94%
17	教育課程の中心となっている、遊び、日常生活の指導、生活単元学習や作業学習は、児童生徒の成長に十分効果を発揮している。	保護者	44%	48%	6%	2%		92%	92%
		職員	54%	43%	4%	0%		96%	100%
18	進路に関する情報の提供や研修会は十分に行われている。	保護者	58%	26%	12%	4%		84%	
		職員	43%	54%	4%	0%		96%	
19	遊び、生活単元学習、作業学習は、他の取り組み（例えば、自立活動や職業/家庭）と連携が図れている。	保護者	37%	45%	16%	2%	1人	82%	
		職員	25%	64%	11%	0%		89%	
20	「元気なからだを作るため」の体育的な取り組みや、安全・衛生面の関心態度形成・意識付けに関わる取り組みは、適切に行っている。	保護者	42%	50%	4%	4%		92%	
		職員	32%	57%	11%	0%		89%	
21	個別教育計画（個別の指導計画、個別教育支援計画、個別の移行支援計画）について保護者と十分話し合い、経過や結果について丁寧な説明をしている。	保護者	60%	34%	6%	0%		94%	91%
		職員	46%	50%	4%	0%		96%	100%
22	パソコンやタブレットなどのICT機器を活用した取り組みは、有効に行われている。	保護者	18%	41%	35%	6%	1人	59%	
		職員	29%	61%	11%	0%		89%	

V 職員

番号	評価項目	回答者	A	B	C	D	無回答	H29	H28
								肯定的評価	肯定的評価
23	教職員は、熱意と情熱をもって教育活動にあたっている。	保護者	64%	32%	2%	2%		96%	94%
		職員	68%	29%	4%	0%		96%	91%
24	教職員は、子どもの気持ちを受け止めてきめ細かく対応している。	保護者	60%	38%	0%	2%		98%	92%
		職員	54%	43%	4%	0%		96%	94%
25	教職員の言葉遣い・態度など、職業人としてのマナーは適切である。	保護者	60%	34%	4%	2%		94%	96%
		職員	43%	50%	7%	0%		93%	89%

VI 児童・生徒

番号	評価項目	回答者	A	B	C	D	無回答	H29	H28
								肯定的評価	肯定的評価
26	子どもは、「今日に満足し、明日を楽しみに待つ」学校生活を過ごしている。	保護者	66%	22%	12%	0%		88%	
		職員	39%	57%	4%	0%		96%	
27	子どもが、自分からやろうとすること（自分でやりたいと思うこと）が増えてきている。	保護者	58%	30%	12%	0%		88%	93%
		職員	57%	39%	4%	0%		96%	100%
28	子どもに、挨拶や着替え、社会のルール、働くことの意義など自立するために必要な力が身に付いてきている。	保護者	44%	38%	16%	2%		82%	92%
		職員	39%	61%	0%	0%		100%	100%

VII 附属の役割

番号	評価項目	回答者	A	B	C	D	無回答	H29	H28
								肯定的評価	肯定的評価
29	研究校として、実践的研究を行い、有用な取り組みを外部に発信している。	職員	43%	54%	4%	0%		97%	83%
30	県内や地域における特別支援教育の推進に努めている。	職員	21%	57%	18%	4%		78%	75%
31	大学や教育学部と連携が図られ、お互いに必要な関係となっている。	職員	29%	54%	14%	4%		83%	86%
32	教育実習生に必要な適切な指導を行い、有為な教員養成を行っている。	職員	25%	61%	14%	0%		86%	75%